

2014年 12月 No25

—巻頭エッセイ—



涙で滲んだ DVD

理事 田中 英子

精神疾患の患者数が糖尿病やガンなどの疾患をはるかに上回ったことや、年間3万人を超える自殺者の多くは精神疾患の可能性があると、厚生労働省は平成23年7月に精神疾患を加えて5大疾患としました。それにより医療や福祉の面で改善が加速するよう期待しております。一般的に心の病と言われている精神障害ですが、脳の病気であり向精神病薬は脳の中枢神経に働きかけるといわれております。従来の定型抗精神病薬と新薬の非定型抗精神病薬が30種類以上ありますが、副作用のために断薬してしまう場合もあります。

ご紹介する DVD による薬はこれから第2相試験を経て近い将来、国の承認に期待するものです。NPO 法人 地域精神保健福祉機構・コンボ発行の糸川昌成先生（東京都医学総合研究所）による「新しい治療方法をめぐる冒険」の97分。研究の結果、今までとはまったく異なる治療薬であり、ビタミン B6 のピリドキサミンを投与する臨床試験では副作用もなく良い結果が出ています。市販されているビタミン B6 では効果が期待できないのです。

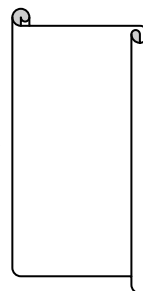
また、糸川先生の母親は統合失調症でしたが、だから精神科医になったのではなく、外科医を目指して精神科で実習をした時、統合失調症の患者さんと出会い精神科医になろうと決心されました。母親が亡くなってから、カルテをもとに母親探しの旅をされています。

統合失調症の母親とガンの父親を通し精神科医として導き出されたことは、「色々な言動にはすべて意味がある。抗精神病薬は脳に作用するが魂は治さない。」などの見方や考え方が強く心に残りました。母親探しの旅、ガンの父親への思いやりなど涙で滲んだ数々の話。

難しい説明もありますが、是非お薦めしたい DVD です。

どんぐり工房の二人の作品が —— 心の美術展で奨励賞に！

12月3日に開催された、「心の美術展」に出品したどんぐり工房のメンバーのM・Sさんの切り絵とS・Tさんの油絵が、多くの出品作品の中から選ばれて見事奨励賞を受賞しました。M・Sさんは何とここ数年間の連続受賞！日頃からコツコツと制作に努力を積んできた成果です。今後も益々力をいれて作品作りに励んで欲しいものです。おめでとう！



「共生社会」の行く手は？—親の思い・現場の願い—

毎年12月初めは「障害者週間」です。国民の間に広く障害者福祉について関心と理解を深めるとともに、「共生社会」を実現するためにみんなが考えることを目的としています。四街道市では、平成27年から同29年までの第4期障害福祉計画を現在策定中です。

この作業の参考にすべく、8～9月には障害者団体との意見交換会がおこなわれました。この中で、地域生活支援センターとしての意見を求められ、施設長は次の様に述べました。

「利用者の方々と接している中で、常に考えているのが、いつまでも家族と一緒にいるのはありうる姿ではないという事と、一人で生活しているといつか行き詰まってしまう事があると思うので、次のステップとしてグループホーム等の福祉サービスに繋げていく事が必要だと感じている。」

また、家族会ホープでは、ワンステップ例会を開催していますが、その中でも「親の高齢化が問題になり、子どもと一緒に居られるのは少ないのだから、せめて一緒に居られる今を楽しみたい。中断しているグループホームをもう一度考える必要が・・・」との声。これも共生社会への願い。現場と家族の声を何とか道筋だけでも！今年も暮れます。



鐘—かね

今年も聞いて
いろいろ反省しよう

そして明るい
明日を思うんだ

寝ちゃわないかが心配

(作) とも
詩集 第4作より

市役所庁舎内の販売 売れ行きは好調！

四街道市役所内で障害者施設の製品販売が始まって4カ月。どんぐり工房は、お馴染みのクッキー、ジャム、手芸作品、パン、野菜等を市庁舎一階ロビーの一角を借りて販売しております。

市役所を訪れる市民の方々にも買って戴いて、まずまずの売れ行き。新年からは、隔週第1、3火曜日の11時からどんぐり工房の販売日となりました。

市役所に販売当日来庁される方は、是非お立ち寄り下さってどんぐり工房の「お店」に立ち寄り下さい。

編集子雑感

— ‘14の終わりに—

年末の慌ただしさに
加えての衆院選。
結果はご承知の通り。

障害者の仲間にも
希望が持てる政策を
是非実現させて欲しい。
来年こそはそれが
叶いますように。

(Y)